

2月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1カ月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

沖縄群島

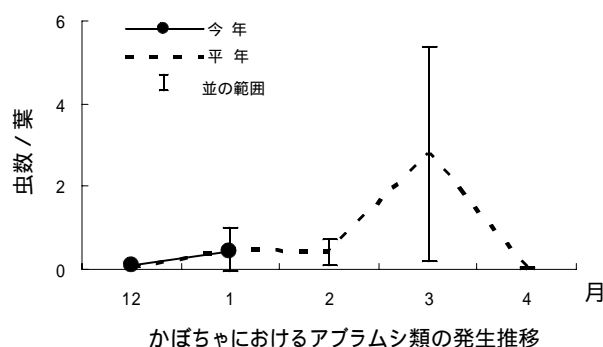
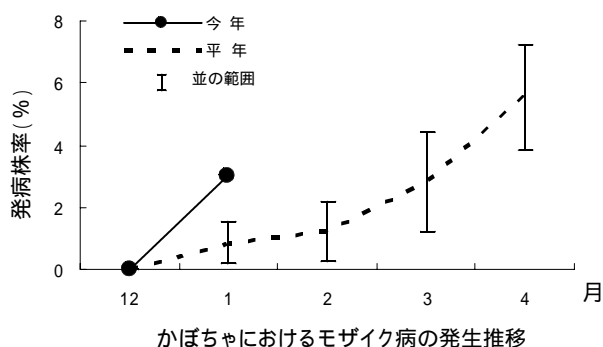
1 かぼちゃ

(1) モザイク病

発生程度： 多

予報の根拠

- a 1月下旬の調査の結果、発病葉率は3%（前年3.5%、平年0.8%）と平年より高かった。また、発生ほ場率は60%であった。
- b アブラムシ類の葉当たり虫数は0.4頭（前年1頭、平年0.5頭）と平年並みであった。



防除上注意すべき事項

平成16年度病害虫発生予察注意報第5号（平成17年1月31日付け）参照。

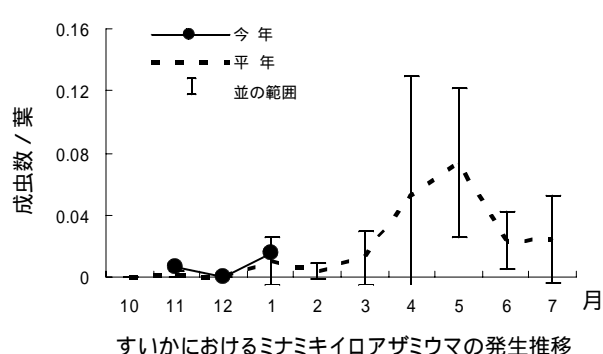
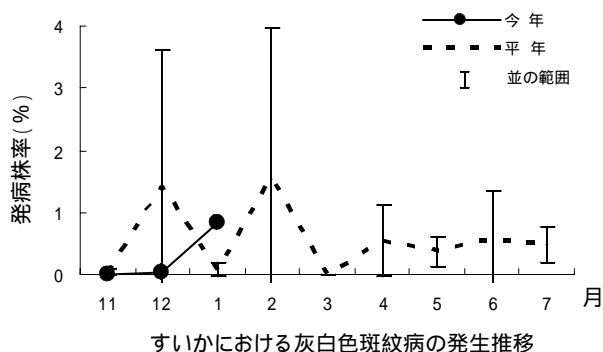
2 すいか

(1) 灰白色斑紋病

発生程度： 多

予報の根拠

- a 1月下旬の調査の結果、発病株率は0.8%（前年0.8%、平年0.08%）と平年より高かった。
- b ミナミキイロアザミウマの葉当たり成虫数は0.02頭（前年0.1頭、平年0.01頭）と平年並みであった。
- c 一部育苗施設においてミナミキイロアザミウマの発生が認められた。



防除上注意すべき事項

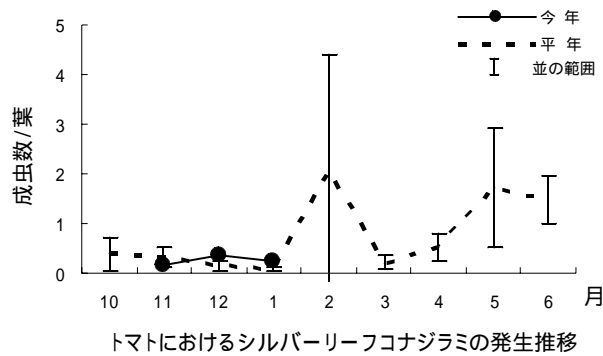
平成16年度病害虫発生予察注意報第1号（平成16年4月30日付け）および平成16年度技術情報第6号（平成16年11月8日付け）参照。

3 トマト(施設)

(1)シルバーリーフコナジラミ

発生程度: 多
予報の根拠

1月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.25頭(前年0.07頭, 平年0.07頭)と平年より多かった。



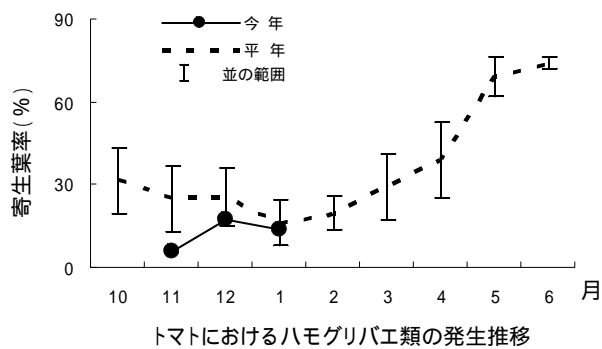
防除上注意すべき事項

平成16年度病害虫発生予察注意報第4号(12月24日付け)参照。

(2)ハモグリバエ類

発生程度: 並
予報の根拠

1月下旬の調査の結果、寄生葉率は13.4%(前年1.2%、平年16.1%)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

- ハモグリバエ類は初期防除が重要である。多発してからは防除が困難になるので、早期発見に留意する。
- 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。

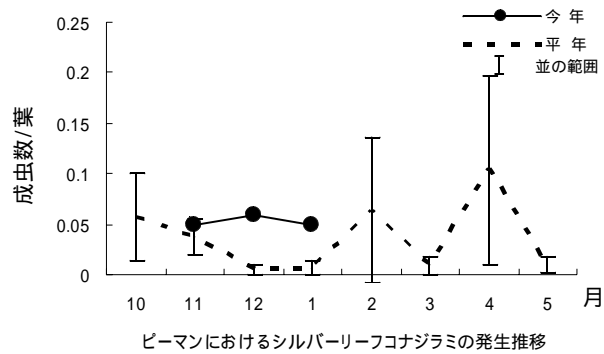
4 ピーマン(施設)

(1)シルバーリーフコナジラミ

発生程度: 多

予報の根拠

1月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.05頭(前年0.03頭, 平年0.01頭以下)と平年より多かった。



防除上注意すべき事項

平成16年度病害虫発生予察注意報第4号(12月24日付け)参照。

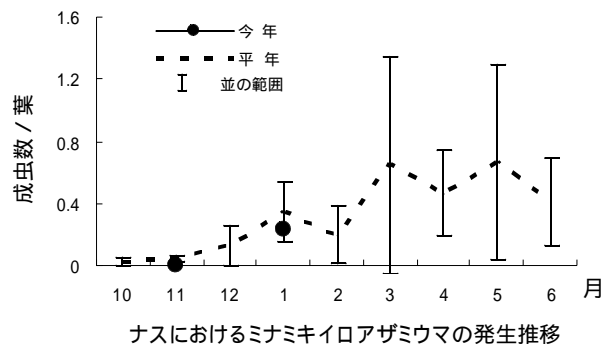
5 なす(施設)

(1)ミナキイロアザミウマ

発生程度: 並

予報の根拠

1月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.23頭(前年0.31頭、平年0.35頭)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

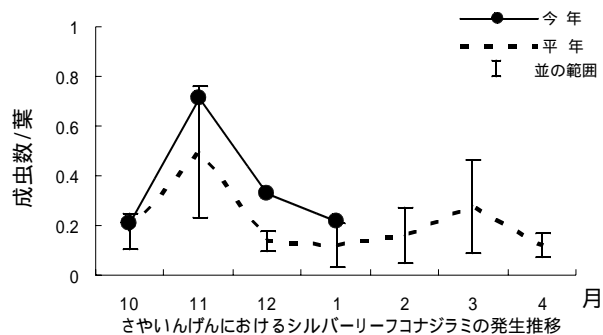
- シルバーポリマルチの利用、および入口、天窓、側窓にはネット資材等を張り成虫の飛来侵入を防ぐ。
- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。

6 さやいんげん(平張り)
 (1)シルバーリーフコナジラミ

発生程度: やや多

予報の根拠

1月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.22頭(前年0.09頭, 平年0.12頭)と平年よりやや多かった。



防除上注意すべき事項

平成16年度病害虫発生予察注意報第4号(12月24日付け)参照。